

日本計量生物学会 ニュース・レター No.15

1985年9月

目次

新編集委員から
第13回国際計量生物学会議について
1985年度 総会報告
” 第1回理事会 議事録
” 第2回理事会 議事録
1985年度—1986年度 理事会名簿
関連学会のお知らせ

これまで本ニュースの編集を担当されてきた吉沢正先生・鳩山由紀夫先生の後を引き継ぎ、今回からわれわれ3名が編集を担当することになりました。両先生のこれまでの御苦労に、会員を代表して感謝申しあげたいと思います。

さて、去年は第12回国際計量生物学会議の開催という大仕事があり、学会の活動もそこに集約した感がございました。幸い、内外からの参加者に高く評価され（本ニュース掲載の次期会議議長 Dr. G. van Belle の記事を参照下さい）、我国のとくに若い世代の研究者に対する強い刺激となったという意味においても、成功した会議であったと思われま

す。この刺激を受け継ぎ、今後の研究活動の活性化を図る上で本学会の果たすべき役割には大きなものがありますが、そのための会員間の情報交換の場として、本ニュースのもつ意義も大きいと思われま

す。とくに本学会は、Biometrics という優れた雑誌が刊行されていることもあり、年会の報告である Bulletin 以外の雑誌の発行の予定は現在はありませんので、単なる事務報告以外の学術的な内容も大いに盛りこむつもりで編集にあたっていき

たいと思います。具体的には次のような記事を掲載していく予定です。

1. 書評あるいは関連特定分野の紹介
2. 関連学会からのお知らせ
3. 本部発行のニュース誌 (Biometric Bulletin) の重要記事紹介
4. Biometrics 誌の論文紹介

生物統計の分野は多岐にわたっており、例えば Biometrics を一瞥しても、自分の専門分野以外は、問題の所在さえ容易に理解しえないのが現状と思われま

す。生物統計の豊かさを伝え、またこの分野を振興する上で、適切な入門書や最新の研究成果をまとめた書籍の存在を日本語で知らせ、その評価と共に適切な解説を行うことは大きな価値があることと考えられます。この意味で1.を重視していきたいと思

います。また協力して下さる方あてがつき次第、4.も再開させていきたいと考えています。

力不足ではありますが、私達なりに努力していく所存です。会員の皆様のご意見や情報の提供をよろしくお願い申しあげま

大橋靖雄・種村正美・三輪哲久

新編集委員から

第13回 国際計量生物学会議について

シアトルに向けて 1

(Biometric Bulletin Vol. 2, No. 2 より和約)

Gerald van Belle (XIII IBC 議長)

第13回国際計量生物学会議は1986年7月27日から8月1日にかけて、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市のワシントン大学にて開催の予定である。会議は国際計量生物学会の米国北西地域支部の主催で行なわれることになっている。フランス支部の Richard Tomassone 氏がプログラム委員長である。現地の組織委員会の長にはシアトル市のワシントン大学生物統計学科の Gerald van Belle 博士があたる。プログラム委員会と組織委員会は密接に協力しながら、会議を成功裏に開催できるよう努力している。組織委員会はすべての議事録をプログラム委員長と国際計量生物学会の各役員の方々に送付している。

会議の構成は前回の会議と同じく、日曜日である7月27日の夕方から受け付け開始、会期は月曜、火曜、木曜、金曜とし、水曜日を遠足・見学（以下参照）の日に充てるという計画である。

ワシントン大学について

会議は風光明媚なワシントン大学のキャンパスで開催の予定である。本学は Pacific Northwest の中心たるシアトル市北部の中心に位置する。本学は35,000人の学生 — 夏期にはその半数が不在と思われる — を擁し、ワシントン州の単科・総合大学システムの中で最大の大学である。会議の宿泊施設として大部分、ワシントン大学の寄宿舎が充てられることと思われる。各部屋のスペースは十分で、設備も良い。本学は数多くの国際会議を主催しており、魅力的な宿泊施設を提供できる。部屋の不足分は学外のホテルやモテルで予約できる。すべての会合は大学構内の十分な座席と視聴覚機器を完備した大教室で開かれることになるだろう。

会議への登録および郵便物の受け付けは会議事務局でおこなわれる。住所は次の通り：

International Biometric Conference
Office of Conference Management
University of Washington, GH-22
Seattle, WA, 98195, U.S.A.
Tel. (206) 543-2300

Contributed Papers と出版について

ワシントン大学の John Crowley 博士が contributed papers と出版を担当している。Biometric Bulletin の次号には contributed papers の著者、招待講演者に関するアナウンスが掲載される予定である。会計募金委員会の委員長にはコロラド州立大学の Jim Williams 博士が当たる。彼は募金を集めるためのあらゆる努力を傾けている。組織委員会は発表者の旅費を援助するための基金を集めるべく鋭意努力している。現時点までに、募金に応じてもらえそうな資金源の心当たり数件を確認している。この点に関して情報をお持ちの方は Williams 博士に連絡をしていただきたい。われわれは特に大学院学生や第三世界の計量生物学者の本会議への参加を期待している。そして彼らの参加を経済的に援助するため努力するつもりである。これがどこまで行なえるかはわれわれがどこまで募金調達に成功するかにかかっている。歓迎行事や登録の監督はワシントン大学の Loveday Conquest 博士が担当する。彼女は夫婦連れの参加者のための観光旅行や、会期の水曜日に行なわれる特別行事、そして金曜日夜の晩餐会の用意をしてくれるはずである。

特別観光地

シアトル地区の特に興味を引く観光地として、近郊の海、山、そして湖が挙げられる。気候は海洋性で

穏やかである。7月末から8月初めにかけては日中の気温は摂氏20度代の前半で大変良い。雨に見舞われることはほぼ皆無で、傘は必要ない。参加者が乗り入れる航空機はおそらく、ここシアトルで製造されたものであろう。かのボーイング航空機会社はここにあり、およそ70,000人の人々が働いている。ワシントン州の第二に大きい産業は木材である。ワイヤーハウザー会社は森林産物の主な産出会社である。そして第三の産業は漁業である。漁業資源の管理・経営は州や大学職員の主な関心事である。最後に、シアトルの北約100kmの地域にはチューリップなどの球根が栽培されており、本場オランダと張り合うほどである。

1986年の7月と8月には他の観光行事がある。すなわち、EXPO '86がカナダのブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバーで、5月から9月にかけて開催される予定である。バンクーバーはシアトルの北約215kmに位置し、バスや自動車ですぐに行ける。1986年8月11日から16日の間、第二回統計教育国際会議がブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学で開催される。

Biometric Bulletinの次号以下ではIBC XIIIに関する情報を定期的にお知らせする予定である。読者の中で議論を希望する項目があれば、下記宛御連絡いただきたい。御提案の件を次回以降の記事に含めるつもりである。8月号と11月号には登録用紙と会議に関する詳しい情報を掲載する。

以上、これらの活動には、われわれは東京会議での日本支部の水準の高い活動を模範にした。東京会議に参加したわれわれのメンバーの脳裏には、温かい歓迎を受け、会議が滞りなく進行した思い出が焼きついている。われわれも同様に、IBC XIIIを成功させたいと考えている。

Gerald van Belle
Biostatistics SC-32
University of Washington
Seattle, WA, 98195, U. S. A.
Tel (206) 543-8004

会議の登録・発表申し込み

Biometric Bulletin Vol.2, No.3 から、第13回国際計量生物学会議関連の情報を抽出してお知らせする：

- ・会議は予定通り1986年7月27日（日）から8月1日（金）。オープニングセレモニーは27日の6時から8時。バンケットは1日の6：30出発。
- ・登録は1986年5月1日までは\$125、それ以降は\$150。登録者に対して、詳細な情報が送られる。登録用紙はBulletinについている。
- ・論文の申込みは1986年2月15日まで。Bulletinについている用紙（B5相当）にアブストラクトをタイプし、登録用紙、登録費と共に会議事務局に送付する。
- ・発表は1人1件。口頭発表（15分）とポスター発表のいずれかが選択できる。少人数による討論や詳しい図表の掲示も可能なポスター発表を進める雰囲気を感じられる。
- ・大学ロッジへの宿泊予約も登録時に可能。費用

は朝食・昼食を含み（26日夜から）6泊でシングル\$174、2人一緒で\$155×2。

・遠足・見学のプログラムも発表されている。同伴者用に毎日朝から1つと、水曜には（鮭つりを含む）全部で5つのプログラムが組まれている。

またInvited papers sessionの表題とオーガナイザーが以下のように決定された。

1. 多変量データのグラフィック手法
(Graphical methods for multivariate data)
J. M. Chambers (U. S. A)
2. 人類遺伝学と遺伝疫学
(Human genetics and genetic epidemiology)
J. Stone (U. K.)
3. 酸性雨研究のための統計的手法
(Statistical methods for acid precipitation studies)
J. O. Rawlings (U. S. A)
4. 農事試験における残差分析
(Analysis of residuals in agricultural trials)
J. J. Claustrioux (ベルギー)
5. 生理システムの数学・統計モデリング
(Mathematical and statistical modelling of

physiological systems)

C. Cobelli (イタリア)

6. 相互検証法の応用

(Application of cross validation)

G. J. McLachlan (オーストラリア)

7. 林学・水産学・野生生物生態科学における統計的問題

(Statistical issues in forestry, fisheries and wildlife sciences) R. Alldredge (U. S. A)

8. バイオメトリーに有用な非線型理論の最近の発展

(Recent advances in non-linear theory useful in biometry) O. Bunke (東ドイツ)

9. 臨床試験データにおける多重性の問題

(Problems of multiplicity in clinical trials data) S. J. Pocock (U. K.)

10. 生物学・農学・環境科学研究における点過程の応用

(Applications of point process in biology, agronomy and environmental studies)

E. Jolivet (フランス)

11. ステレオロジー (Stereology)

L. Cruz-Orive (スイス)

12. 生物統計解析におけるデータベース管理

(Data base management in biostatistical analysis) 丹後俊郎 (東京都臨床研)

13. 多変量バイオアッセイの最近の展開

(Recent development in multivariate bio-assay) Hubert (カナダ)

(Development of computer aided instruction software for biometrics というセッションは中止された模様)

1985年度 総会報告

日時：1985年4月20日(土) 11:55~12:30

場所：統計数理研究所講堂

議事次第

1. 事業報告

1984年度事業として、理事会活動、1983年度 Bulletin の発行、ニュース・レターの発行、現会員数(A会員:33名, B会員:261名, C会員:9名, 計303名)について報告があった。

2. 第12回国際計量生物学会議

当日配布された資料にもとづき、決算、および、506名の参加者があったことが報告された。

3. 1984年度決算、1985年度予算案が当日配布の資料にもとづいて報告され承認された。

4. 役員(三役, 理事)

3役については、会員からの候補者の推薦にもとづき、理事会において、林知己夫(会長)、奥野忠一(庶務理事)、駒澤勉(会計理事)の3氏に決定した。理事については、候補者が推薦され、3役とともに承認された〔(注)本ニュース理事会名簿参照〕。

3. 次期(1987年度)以後の役員選出に向けて、選挙規約作成のための委員会を構成し、その委員として、駒澤勉、鈴木茂、種村正美、椿広計の4氏があたることが承認された。

4. 本部 Council member として、理・工・経済、医・薬、生物・環境の3分野から1名ずつの候補者を出すことが提案され承認された。人選については理事会に一任された。

5. 学術会議会員の推薦

理事会において、林知己夫(候補者)、奥野忠一(推薦人)を決定し、2月26日に学術会議に届けたが、3月12日に追加として、奥野忠一(候補者)、浅井晃(推薦人)を届けた旨の報告があった。

〔(注)日本統計学会・応用統計学会および本学会を選出母体とする学術会議会員には林知己夫会長が選出された。〕

1985年度第1回理事会議事録

日時：1985年5月22日(水) 18:00~20:00

場所：統計数理研究所会議室

出席者：林(会長)、奥野(庶務理事)、浅井、大橋、鈴木、丹後、廣崎、古川、三輪(以上理事：アイウエオ順)、栗原(事務局)

自己紹介のあと、以下の事項について審議を行った。

議事次第

1. 理事会メンバー担当部署の決定

先の総会で承認された新理事の役割分担を別掲のように決定した。本学会の現在の活動は、年1回の総会と Bulletin の発行及びニュース

レターの発行であるが、企画担当理事には総会の企画と Bulletin の発行、その他学会活動について検討いただき、広報担当理事にはニュースレターの発行をお願いする。総会の報告である Bulletin 以外に雑誌を発行することはせず、会員相互のコミュニケーションの場としてニュースレターをより充実したものとする。

また、総会において決定を理事会に一任いただいた監事については、

渋谷政昭（慶応大理工）

大友栄松（国際商科大）

の 2 氏をお願いすることとした。

2. Council Member の推薦について

先の総会で本部 Council Member 候補者の承認をいただいたが、候補者の一人である柳川理事から辞退の意が（手紙により）表された。柳川理事を除く次の 3 理事を推薦することとした。

浅井 晃（千葉大理）

佐久間昭（東京医科歯科大）

鈴木 茂（生物資源研）

3. その他

大橋理事から、大幅に発行の遅れている 84 年総会の Bulletin について、5 月一杯で原稿を締め切り発行に移る旨の報告があった。また 85 年分については、原稿が集まった時点で、企画担当の新理事が業務を引き継ぐこととした。

4. 次回日程

1985 年 7 月 17 日 18:00 から統計数理研究所で行うこととした。

1985 年度第 2 回理事会議事録

日時：1985 年 7 月 17 日（水）18:00～20:00

場所：統計数理研究所会議室

出席者：奥野（庶務理事）、駒沢（会計理事）、浅井、大橋、佐久間、新保、丹後、廣崎、三輪（以上理事アイウエオ順）、栗原（事務局）

議事次第

1. 前回議事録の確認

浅井・佐久間・鈴木 3 理事の本部 Council Member への推薦状を早急に発送することを確認した。監事については、渋谷政昭（慶応大理

工）、大友栄松（国際商科大）の 2 氏に奥野理事からお願いすることを確認した。

2. ニュースレターの発行について

大橋理事から発行の方針と予定が発表された。概要は以下のとおり。

- ・年 3～4 回の発行で、学術的にも内容の豊富なものとする。
- ・生物統計の様々な分野を紹介する意図もこめて書評の欄を充実させる。
- ・できれば Biometrics 誌の論文の抄録を掲載する。

理事の各氏に対し、原稿や情報提供の面で協力要請がなされた。

3. 会員数の増強について

駒沢理事から現在の会員数が発表され、とくに A 会員を増強する必要があることが指摘された。また、会員名簿を作成する計画が明らかにされた。

4. 学術会議統計学連絡会議について

学術会議から、2 名の候補者リストを提出するよう当学会に要請があった。次回の理事会で決定することで同意を得た。

5. 理事選出方式について

先の総会において、理事の選出方法を決定する選挙方式委員会を設けること、およびその委員を駒沢・鈴木・種村の各理事と椿広計氏の（東大工）をお願いすることの承認をうけた。次回理事会までに原案を作成することを、駒沢理事にお願いした。

6. その他

丹後理事から、来年の IBC の Invited Session のオーガナイザーが一応決定した旨の情報が提供された。セッション名とオーガナイザー名はニュースレターに掲載する。また大橋理事から Bulletin の編集状況が報告され、1984 年分の Bulletin とニュースレター No.15 は 8 月末発行予定で作業中という報告があった。

7. 次回日程

1985 年 9 月 25 日（水）18:00 から統計数理研究所で行うこととした。

計量生物学会理事会名簿

1985 年 86 年の理事は次のように決まりました。

会長 林知己夫 統計数理研究所
 庶務理事 奥野忠一 東京理科大学経営工学科
 会計理事 駒澤 勉 統計数理研究所
 理事(企画) 嶋津靖彦 遠洋水産研究所
 (〃) 丹後俊郎 東京都臨床医学総合研究所
 (〃) 吉澤 正 山梨大学計算機科学科
 (広報) 大橋靖雄 東京大学医学部附属病院
 (〃) 種村正美 統計数理研究所
 (〃) 三輪哲久 農業環境技術研究所
 浅井 晃 千葉大学理学部数学科
 井山審也 国立遺伝学研究所
 後藤昌司 塩野義製薬解析センター
 佐久間昭 東京医科歯科大学難治疾患研究所
 鈴木 茂 農業生物資源研究所
 鳩山由紀夫
 廣崎昭太 国立公害研究所
 古川俊之 東京大学医学部医用電子研究施設
 山本俊一 東京都老人総合研究所
 地方理事
 (企画兼任) 柳川 堯 九州大学理学部数学科
 大竹正徳 放射線影響研究所
 工藤昭夫 九州大学理学部数学科
 正法地孝雄 広島大学総合科学部
 新保外志 富山県立技術短期大学応用数学科
 監事 渋谷政昭 慶応義塾大学理工学部
 大友栄松 国際商科大学教養学部

関連学会のお知らせ

第1回形の科学・国際シンポジウム

日時：1985年11月26日(火)～30日(土)

場所：筑波大学

参加費：4万円(学生 2万円)

問合せ先：〒305 茨城県新治郡桜村天生台1-1-1
 筑波大学生物科学系 石坂昭三 気付
 国際シンポジウム事務局 (Tel 0298-53-6672)

「形」に関心をもつ生物・医学・物理・工学その他さまざまな分野の国内の研究者により、ことし創設された「形の科学会」のはじめての国際シ

ンポジウム。

プログラムのトピックスには morphometry, morphogenesis 等も含まれており、計量生物学にたずさわる人々にも興味ある議論がなされる予定。

第5回医療情報学連合大会

日時：1985年11月28日(木)～30日(土)

場所：東京芝・機械振興会館

参加費：1万円

問合せ先：医療情報システム開発センター内
 連合大会事務局 (Tel 03-586-6321)

医学・情報学関連の75学会・研究会の連合大会(本学会も協賛学会)で、200以上の論文発表、5つのワークショップ、10の教育セミナー等が予定されている。医学統計関連の発表も多く、今年、5セッション20を超える論文が寄せられている。

第6回日本臨床薬理学会

日時：1985年11月29日(木)～30日(土)

(28日には、別府市日名子ホールにおいて学術会議臨床薬理シンポジウムが開催される。)

場所：別府市・杉の井ホテル

参加費：非会員7,000円

問合せ先：大分医科大学臨床薬理教室内
 臨床薬理学会事務局 (Tel 0975-49-4411 内2952)

毎年5から10の臨床試験データ処理に関する論文が発表される。前日に開催されるシンポジウム『循環器薬の薬効評価』では、血圧降下薬など4種の薬の薬効評価研究に関して厚生省研究班が作成したガイドラインについて、作成者側、臨床側、メーカー側から討論が行なわれる。プロトコル作成、データ管理、解析など統計学者の関与すべき問題についても相当の議論がなされる予定である。

関連学会やシンポジウムに関する情報をお持ちでしたら、下記の事務局を通じて編集委員までお知らせ下さい。

日本計量生物学会事務局
 〒162 東京都新宿区神楽坂1-3
 東京理科大学経営工学科 奥野研究室
 Tel (03) 260-4271 内339 栗原恵美子